

2026 年度 授業計画(シラバス)							
学 科		理学療法士学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	演習
科 目 名		理学療法総合演習Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年		2年		学期及び曜時限	後期	教室名	302
担 当 教 員		荒木 将平	実務経験とその関連資格	理学療法士として回復期病院、介護老人保健施設に勤務経験あり。臨床実習指導者の経験もある。			
《授業科目における学習内容》							
これまで学修した解剖学、生理学、運動学といった医学的基礎知識、および理学療法評価学の基本技術を、臨床場面に即して統合・応用する能力の育成を目的とする。授業は、教員による一方的な講義形式を排し、グループディスカッション、事例検討、実技演習、学生による発表といったアクティブラーニングを中心に展開する。学生は主体的に課題に取り組む中で、知識の定着を図るとともに、理学療法士に不可欠な問題解決能力、論理的思考力、コミュニケーション能力の基礎を養う。							
《成績評価の方法と基準》							
アクティブラーニングの効果を最大化するため、プロセスを重視した評価を行う。 授業参加度・貢献度(40%)：各回のグループワークやディスカッションへの積極的な参加、発言内容などを評価する。 課題レポート・成果物(30%)：各演習で課されるレポートや作成物の内容を評価する。 グループ発表(30%)：事例検討の最終発表における内容、論理性、表現力、質疑応答を総合的に評価する。							
《使用教材(教科書)及び参考図書》							
配布資料							
《授業外における学習方法》							
医療業界や理学療法分野、地域医療など幅広い視点に加え、基礎的な知識や理学療法の専門知識を整理しておく							
《履修に当たっての留意点》							
基礎的な知識や専門知識を整理し、グループディスカッションでは積極的な意見交換を行う							
授業の方法		内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	・本演習での学び方を理解し、主体的に参加する姿勢を持つ。 ・ICFの構成要素を自身の言葉で説明できる。		配布資料	前期に学んだ解剖・生理・運動学の教科書やノートを見直し、特に苦手な分野を自己確認する。	
		各コマにおける授業予定	オリエンテーションと臨床思考				
第2回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	・基本的な日常動作を運動学的視点から分析できる。 ・観察した事象を専門用語で表現する訓練を行う。		配布資料	次回テーマ「歩行」について、正常歩行の周期(立脚期・遊脚期)を復習しておく。	
		各コマにおける授業予定	動作分析の基礎(1) 運動学の応用				
第3回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	・正常歩行周期を説明できる。 ・歩行観察から問題点を推測する思考プロセスを体験する。		配布資料	ぶん回し歩行、鶏歩など代表的な異常歩行の原因となる疾患や機能障害を調べておく。	
		各コマにおける授業予定	動作分析の基礎(2) 歩行分析				
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	・共感的態度で、相手から情報を引き出すコミュニケーションを実践できる。 ・主観的情報(S)と客観的情報(O)の違いを理解する。		配布資料	良い問診と悪い問診の例について考え、その違いをノートにまとめる。	
		各コマにおける授業予定	情報収集とコミュニケーション				
第5回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	・正確かつ安全に主要関節のROM測定を実践できる。 ・ROM制限の原因を推論し、根拠を説明できる。		配布資料	関節可動域表示ならびに測定法(日本リハ医学会)に目を通し、基本軸・移動軸を確認する。	
		各コマにおける授業予定	評価の統合(1) 関節可動域(ROM)				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	・正確な肢位・固定でMMTを実践できる。 ・MMTの結果とADL障害を結びつけて考察できる。	配布資料	MMTの各段階(5～0)の定義を完全に暗記してくる。
		各コマにおける授業予定	評価の統合(2) 徒手筋力検査(MMT)		
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	・主観的・客観的情報から、対象者の問題点を抽出できる。 ・問題点リストの作成方法を理解する。	配布資料	これまでの演習内容を振り返り、評価(ROM, MMT, 動作観察)と問題点の関連性を考える。
		各コマにおける授業予定	臨床推論の導入		
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	・具体的で測定可能な目標を設定できる。 ・問題点と目標を結びつけ、アプローチの方向性を立案できる。	配布資料	SMART原則(Specific, Measurable, Achievable, Relevant, Time-bound)の各項目について具体例を調べる。
		各コマにおける授業予定	目標設定とプログラム立案の基礎		
第9回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	・整形外科疾患の典型的な理学療法プロセスを理解する。 ・グループ内で役割を分担し、協調して課題に取り組める。	配布資料	足関節の解剖(骨、靱帯)と足関節捻挫の病態(RICE処置など)について復習する。
		各コマにおける授業予定	【総合演習①】症例検討(整形外科疾患)		
第10回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	・複数の評価結果を統合し、患者の問題構造を理解できる。 ・ICFの各構成要素に問題点を分類できる。	配布資料	事例の問題点リストを作成し、その根拠を記述する準備をしておく。
		各コマにおける授業予定	【総合演習①】評価と問題点抽出		
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	・対象者の希望と機能障害を結びつけた目標を設定できる。 ・科学的根拠に基づいたプログラムを立案しようと試みることができる。	配布資料	足関節捻挫に対する運動療法の種類(ROM訓練、筋力強化、バランストレーニング等)を調べる。
		各コマにおける授業予定	【総合演習①】目標設定とプログラム立案		
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	・自身のグループの考えを論理的に構成し、発表できる。 ・他者の発表を傾聴し、建設的な質問や意見を述べられる。	配布資料	他のグループの発表を聞き、良かった点や自分たちとの違いをメモする。
		各コマにおける授業予定	【総合演習①】発表とディスカッション		
第13回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	・内部障害を持つ対象者へのリスク管理の重要性を理解する。 ・高齢者の特徴(多疾患罹患、フレイル等)を考慮したアプローチを考えられる。	配布資料	COPDと高血圧の理学療法における禁忌・注意事項を復習する。
		各コマにおける授業予定	【総合演習②】症例検討(内部障害・高齢者)		
第14回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	・複合的な問題を持つ症例に対するアプローチの複雑性を体験する。 ・生活の質(QOL)を考慮した目標設定ができる。	配布資料	高齢者の転倒予防に有効とされる運動プログラムについて調べる。
		各コマにおける授業予定	【総合演習②】統合と解釈、計画立案		
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	・15回の学びを総括し、自身の成長と課題を言語化できる。 ・3年生以降の学修に向けた具体的な目標を設定できる。	配布資料	作成した自己の学習計画を教員に提出し、フィードバックを求める。
		各コマにおける授業予定	総括と自己の課題の明確化		